



上田市真田のグループ

上田市真田町地区の社会福祉法人を中心としたグループが、地区内に限定して配布する月刊フリーペーパー「活き活き（いきいき）ふるさと通信」を創刊した。地区住民の写真や市民団体の活動、店舗などを掲載、地域の情報を伝えて少しでも交流の手助けにしたいと張り切っている。

創刊号はA4判6ページ。地元の花や動物などをかたどった「ね学齢前の姉妹が笑顔で寄り添う」の作り方や、わら馬の写真写真で表紙を飾った。市民団体も載せた。

行事を紹介する「今月のクロ一ズアップ」では、子どもの無病息災を祈る伝統の「ねじ行事」喫茶店などのお店を紹介するページもある。4千部印刷し、地元住民に趣味などを披露し、花や動物などをかたどった「ね学齢前の姉妹が笑顔で寄り添う」の作り方や、わら馬の写真写真で表紙を飾った。市民団体も載せた。

地域の情報全戸に発信

よく知られている。たとい 聞いてみると、どうも材業をた 場て取り合いが始まっている海 くらに戻ったとしても、多くの だの産業としてしか扱っていない 外の木材が使えなくなつたとき

月刊フリーペーパー創刊

自治会を通して全戸配布した。今後も毎月15日に発行していく。

発行は、社会福祉法人「恵仁福祉協会」（真田町長）が中心となつて地区内の社会福祉法人などと呼び掛けた。年間の印刷代約70万円には、日本生命財団から同協会が受けている助成金の一部を充てている。事務局を担当する同協会法人本部次長の田中晋さん（41）は「高齢社会になり、より一層地域住民の助け合いが必要となるため、前提として地域を知るきっかけをつくりたかつた」と話す。

グループを構成する6団体の9人が仕事の合間に取材し、原稿を書いている。今年1、2月の準備号では、自慢の娘を紹介する父親や育児サークルなどが掲載された。楽しみにしているとの住民の声が寄せられているという。

真田町地区外の住民でも希望があれば無料での配布を検討している。問い合わせは恵仁福祉協会（☎0268・72・2781）へ。

真田町地区の住民や行事などを紹介するフリーペーパーと事務局を務める田中晋さん（左）



市立助産所とうみ 来月10日に内覧会 東御市は4月10日、市民病院（鞍掛）の駐車場に建設中の「市立助産所とうみ」＝写

真Ⅱの内覧会を開く。同22日の開所を前に助産所の雰囲気を感じてもらい、出産施設選定の参考にしよう。

妊婦が泊まる居室5部屋や分娩室、授乳室、多目的室、食堂などを見ることができ。助産師や市助産所準備室の小山久子室長が待機しており、質問することもできる。午前10時から午後3時まで。参加無料で、申し込みは不要。問い合わせは市民病院庶務係（☎0268・62・1711）へ。準備室によると、助産所は10月までに出産予定の妊婦80人余の予約を既に受け付けている。

新上田自由大学 上小地域の歴史 学ぶ受講生募集

今年創立30周年

上田小泉地域の歴史の勉強を続けている「新上田自由大学歴史学教室」（山極尚一理事長）が、新年度の受講生を募集している。大正から昭和初期にかけて民衆が主体的に学んだ「上田自由大学」の精神を受け継ぐと始まり、今年で30周年。より多くの人と学びたいと呼び掛けている。

新年度は、東信史学会副会長の桜井松夫さん（上田市大屋）が「南北朝・室町時代の東信濃の社会の動き」をテーマに話す。4月から毎月第3土曜日の午後1時半から3時まで、上田図書館2階大会議室で開く。年会費3千円。全10回。ほかに夏季特別講座や30周年記念祝典も行う予定。

新上田自由大学は、1997（昭和52）年、当時の上田市立図書館が開講した。歴史学教室は市民有志の運営で、県文化財保護協会長を務めた



故黒坂周平さん（初は120人ほど）いたが、ここ数年ほど。事務局は

御代田町役場を けた坂本さん（ 6。 付は4月1日 役所市民課ふれ 267・22・17 53・3025。酒 蔵開放）21日午 時、茂田井の同 御代田の せネガルに 青年 国際協力機構 青年海外協力 フリカのセネガ 定する御代田町 師、坂本夏希さ